

学長の業務執行の状況の評価結果について

国立大学法人長岡技術科学大学学長選考会議規則第4条第3項に規定する学長の業務執行の状況の検証結果に基づく評価を行いましたので、その結果を公表します。

1. 検証のプロセス

令和2年度第5回学長選考会議（令和3年1月22日開催）において、以下の資料、学長のプレゼンテーション及び学長選考会議委員との質疑応答により検証した。

- ・学長選考基準（平成27年1月27日付け学長選考会議決定）
- ・学長選考時における所信（平成30年8月20日学長選考会議公示、平成27年5月15日学長選考会議公示）
- ・令和2年度学長の業務執行状況の説明資料（プレゼンテーション資料）

なお、検証にあたり、監事から令和2年度の監査業務における意見を聴取した。

2. 評価結果

令和2年度及び学長就任時からこれまでの業務執行の状況については、適切に執行されていると判断する。

長岡技術科学大学の発展（知名度の向上、国際的なステータスの向上）に貢献された功績は大きい。特に、SDGsをベースとする取り組みに加えて実務訓練の実行など実学を重視した学生育成機関としての特徴を大事にした取り組みや、高専連携に関する様々な取り組み（共同研究、産学連携フォーラム、連携教育プログラムの開始、SHARE事業の推進、クロスアポイントによる教員交流、等）を精力的に実施している点は高く評価できる。

また、国際共同研究を推進する仕組みとして、技学テクノパーク事業はユニークな国際共同研究事業であり、これを通じた様々かつ多数の共同教育研究や産学連携活動は特筆すべき事項として高く評価される。本事業によって作られた国際ネットワークは、長岡技術科学大学のみならず我が国の多数の大学にとっての貴重な財産であるので、今後とも積極的に維持・発展させていただきたい。

コロナ禍でこれまでに経験したことのない状況にもかかわらず、常に最悪を想定した、臨機応変かつ効果的な施策を実施し、特に大きな支障もなく教育、研究、大学運営を円滑に進められていることは、学長のリーダーシップによるところが大きいものと評価する。

以 上